

慢性期における脳卒中を含む循環器病診療の質の評価に関する研究

研究代表者 安田 聡 国立循環器病研究センター 副院長

研究要旨：

循環器疾患診療実態調査 JROAD と脳卒中データベース、これら既存のデータベースと National Database(NDB)の電子レセプト情報を活用・整備して、本研究では 慢性期における脳卒中を含む循環器病診療及び急性期診療との診療連携体制の現状把握を行うこと、循環器病の再発や増悪(慢性心不全)による再入院の予防、急性期診療と慢性期診療のシームレスな連携のための評価指標を作成すること 脳卒中後遺症を含む介護実態を調査すること、により我が国における脳卒中を含む循環器病診療の質向上へとつなげること を目的とする。

A．研究目的

我が国における脳卒中を含む循環器病診療の質向上へとつなげることを目的とする。循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「既存データベースの活用による虚血性心疾患・大動脈疾患診療の実態把握ならびに医療体制構築に向けた指標の確立のための研究」(研究代表者：大阪大学大学院循環器内科学 坂田泰史教授)とともに連携し本研究を遂行する。

B．研究方法

我が国における全国的循環器病データベースとして、循環器疾患診療実態調査 JROAD と脳卒中データベースがある。これら既存のデータベースと National Data base(NDB)の電子レセプト情報を活用する。

(倫理面への配慮)

「DPC データを用いた心疾患における医療の質に関する事業」研究について 2015.3.27 に国立循環器病研究センターにおける倫理委員会を通過(番号：M23-051-3)。

C．研究結果

循環器疾患診療実態調査(JROAD)-DPC データベースでは、様式1(診療録情報)をもとに収集した解析データセットが3年間延べ~235万件にまで蓄積されている。2012-2014年度の3年間延べ216,157例の心不全患者について解析すると 男;

75±13歳, 女; 81±12歳と入院患者の高齢化が著しいこと、本邦では3年間で20%が複数回の入院(再入院)していること、が全国レベルで初めて明らかになった。

D．考察

この再入院率(3年間20%)は既報の心不全レジストリ(CHART-2; Circ J. 2015;79:2396-407.)での3年間再入院率:17%とほぼ同等であり、リアルワールドデータとして今後の活用が期待される。

E．結論

今後ナショナルデータベース(NDB)を用いて、心不全外来診療実態についても分析することにより、心不全再発・再入院に至るリスクや診療の課題を明らかにすることが重要であると考えられた。

F．健康危険情報

特記事項なし

G．研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
 1. The Current Status of Cardiovascular Medicine in Japan; Insights from JROAD and JROAD-DPC Databases. 口頭, 安田 聡, 他. 第82回日本循環器学会学術集会シンポジウム11(2018年3月24日)「わが国の循環器

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし